

# りそな外為レポート

## りそな WEEKLY COLUMN

### りそな外為レポート

円やないかい？円ちゃうし！ (P2)

チーフカスタマーディーラー  
井口慶一

今週のドル円予想レンジ 107.00 ~ 109.00

### りそなWEEKLY COLUMN

2020年10大リスクイベント (P3)

りそなグループ 市場部門

- 2020年第1号のWEEKLY COLUMNは弊社市場部門が想定する、今年の10大リスクイベントを解説します

2020/1/6

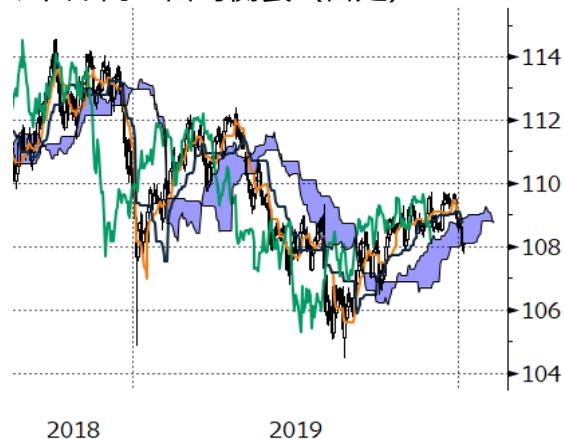
# りそな外為レポート

## 円やないかい？円ちゃうし！

今週のドル円予想レンジ **107.00 ~ 109.00**

(りそな銀行市場トレーディング室予想 発行当日の10時時点)

### ◆ドル円一目均衡表（日足）



### ◆為替相場のすすめ

井口：おかんがね、好きな通貨あるらしいいやけど、名前を忘れたらしいねん。  
同僚：ほならどんな特徴言うてたとか教えてよ。  
井口：マイナス金利の人気がない通貨や言うてた。  
同僚：円やないかい？その特徴はもう完全に円や。すぐわかったよこんなもん。  
井口：俺も円やと思てんけどな、全財産それにつぎ込んでいいって言うねんな。  
同僚：ほな円と違うか！インバウンドで投資呼び込む言うたかて円高になれば日銀総裁も頭抱えるで。もうちょっと何か言ってなかった？  
井口：株が売られると買われる通貨や言うてた。  
同僚：円や！あれはリスクオフになれば訳も分からず買われるんや！パブロフの犬も真っ青やで！  
井口：俺も円やと思てんけどな、おかんが言うにはよく動くて言うててん。  
同僚：円ちゃうやないか！去年8円30銭しか動かへんかったんやで。  
井口：今年は動くかも分からへんけどな。  
同僚：大統領選もあるしな。他になんか言ってなかった？  
井口：おとんが言うにはロシアルーレットちゃうかって。  
同僚：それを言うならロシアルーブルや！絶対ちゃうし！もうええわ！  
(チーフカスタマーディーラー 井口慶一)

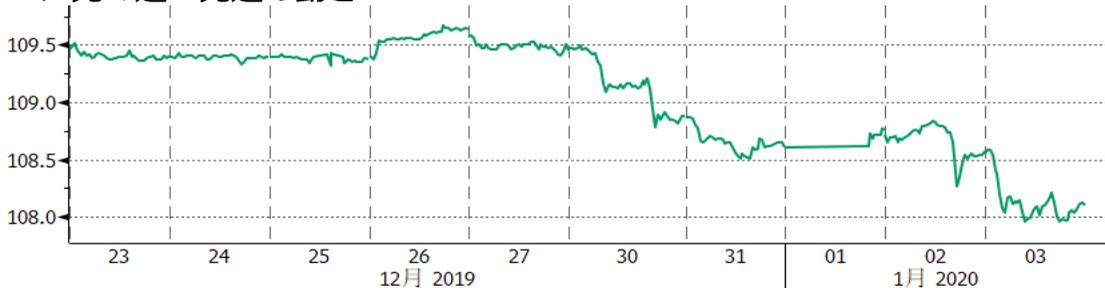
### ◆今週の日程

|                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 7日(火) 欧 12月CPI     | 8日(水) 米 10年国債入札    |
| 7日(火) 日 10年国債入札    | 9日(木) 日 11月毎月勤労統計  |
| 7日(火) 米 11月貿易収支    | 9日(木) 中 12月CPI・PPI |
| 7日(火) 米 11月製造業受注   | 9日(木) - 日米30年国債入札  |
| 7日(火) 米 12月ISM非製造業 | 10日(金) 米 12月雇用統計   |

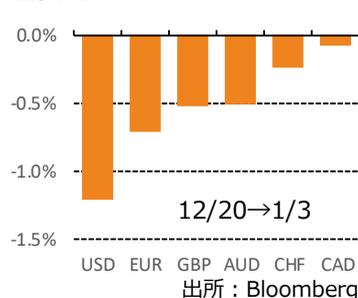
### ◆今週の予想 (ドル高 強い ↑ 普通 ↑ ドル安 強い ↓ 普通 ↓) NY引け値 1月3日(金) 108.09円 VS 1月10日(金)

| 東京 |   |   |   |   |   |   |   | 大阪 |   |   | 埼玉 |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|----|---|---|---|---|---|
| 尾  | 中 | 湊 | 井 | 鳥 | 田 | 高 | 中 | 藏  | 佐 | 鈴 | 武  | 野 | 小 | 津 | 石 | 伊 |
| 股  | 根 |   | 口 | 井 | 中 | 尾 | 里 | 重  | 藤 | 木 | 富  | 瀬 | 林 | 田 | 井 | 藤 |
| ↑  | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↑ | ↓ | ↓ | ↓  | ↑ | ↓ | ↑  | ↓ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |

### ◆先々週・先週の動き



### 主要通貨対円パフォーマンス



◎注意事項  
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願いいたします。

# りそな WEEKLY COLUMN

## 2020年10大リスクイベント

りそなグループ 市場部門

➤ 新年第一号のウィークリーコラムは、市場部門の考える2020年の10大リスクイベントをご紹介します

### ご挨拶

明けましておめでとうございます。昨年は米中貿易戦争、英国のEU離脱を巡るニュースに右往左往しました。しかし、終わってみればNYダウは史上最高値を更新し、年初来の上昇率は+22%。株価は年末にかけて亥年に相応しい猪突猛進相場となりました。果たして今年はどのような年になるのでしょうか？

市場部門では先行きを占う一つのヒントとして10大リスクイベント（可能性は低いものの、実際に発現すると影響が大きいと思われるもの）を発表しています。将来が混沌とした時代に幅広いシナリオ想定しておくことが重要と考えるからです。昨年は「FRBによる緊急利下げ」が的中しました。振り返るとこの米国利下げがグローバルな金利低下、株高に絶大なインパクトがありました。

下記、今年の10大リスクイベントをご覧ください。現実感のないテーマが多いというのが正直なところですが、昨年の米利下げの例もあり、油断大敵です。こうしたリスクの発現の可能性や影響について皆さまにいち早くお届けできるよう、心掛けて参ります。本年も宜しくお願いします。

### 今年の10大リスクイベント

#### りそなグループ市場部門が想定する今年の10大リスクイベント

|                 |                  |
|-----------------|------------------|
| ①トランプ大統領大敗      | ⑥安倍首相退陣          |
| ②日銀・ECBマイナス金利解除 | ⑦パウエルFRB議長解任     |
| ③日経平均3万円到達      | ⑧米国、中東・北朝鮮との軍事衝突 |
| ④FRBドットチャート廃止   | ⑨業界大再編           |
| ⑤中国習近平体制不安定化    | ⑩酒税アップ           |

# りそな WEEKLY COLUMN

## ① トランプ大統領大敗

なんといっても、今年のマーケットの最大の注目はアメリカ大統領選挙です。好調な米国経済、対抗の民主党候補者の状況を鑑みると、現状ではトランプ大統領再選の可能性が相応に高いです。最大のリスクはエリザベス＝ウォーレンのようなリベラル派の民主党候補の支持率が高まり当選が意識されること。米国民はいざ知らず、ウォール街にとってはトランプ大統領再選が好ましいシナリオでしょう。

## ② 日銀・ECBマイナス金利解除

マイナス金利政策が常態化した日本・欧州ですが、物価上昇率が2%に程遠い状況で2020年を通して引締方向への金融政策転換は考えづらい状況です。一方で、マイナス金利政策の副作用が目立ってきているのも事実。日銀・ECBが足並みを揃えて、当面達成できるとも考えづらい物価目標2%を緩和し、マイナス金利解除を画策する可能性も僅かながらあるか、金融機関としては期待したいところでありますが。

## ③ 日経平均3万円到達

2019年は製造業を中心に、米中貿易戦争の煽りを受け厳しい業績となりましたが、FRBの予防的利下げを受け株価は再度24,000円に乗せる場面もありました。金融政策の「低金利の長期化」が常態化する中で、株価にはポジティブとなりやすく、当面はじり高相場が見込まれます。すでに来年の好業績や政府による大規模な経済対策を織り込んでいる向きもありますが、実際2020年は明るい話題も控えています。着々と実用化が近づく5G関連への特需や、東京オリンピックで日本勢が大躍進（金メダル30個！？）するなどし、お祭りムードから個人消費が活発化すれば、日経平均株価はバブル期以来の3万円台到達も夢ではないのでしょうか？

## ④ FRBドットチャート廃止

FRBでは3ヶ月毎にドットチャートと呼ばれる政策金利見通しを公表しています。また、金融政策フレームワークの広範な見直し作業を行っており、来年半ばに結果発表される予定です。ドットチャートは市場参加者とのコミュニケーションツールとして適切か？との議論が盛り上がる可能性があります。

## ⑤ 中国習近平体制不安定化

2020年は10か年でGDP倍増計画の最終年です。節目の年の中国当局の手腕には注目が集まります。一方で香港やウイグル自治区などの問題が国際社会からの反発を招き、国内でも求心力を失うことで体制が揺らぐリスクもあるかもしれません。

## ⑥ 安倍首相退陣

「桜を見る会」問題での大炎上ぶりは記憶に新しいところ。足元ではIRに絡んだ汚職事件から逮捕者が出るなど、こちらも行方が気になります。無事にやり過ごせば良いですが、長期政権の緩みが露呈し、政局不安から退陣に追い込まれる可能性もあります。安定した政権や、外交力、アベノミクスの終焉が意識されると株価には波乱要因となるでしょう。

2020/1/6

# りそな WEEKLY COLUMN

## ⑦パウエルFRB議長解任

2019年も「利下げが足りない」と、トランプ大統領に何度も名指しで批判されたパウエル議長。昨年は3度の利下げで宥めすかしてきたものの、大統領選レースで苦境に立たされたトランプ氏がいらだちを強めると、ついに暴走が止まらず議長を解任してしまう可能性も。後任に超ハト派の議長が誕生すると、追加利下げでドル暴落リスクもあります。

## ⑧米国、中東・北朝鮮との軍事衝突

2019年は日経平均・NYダウはともに約20%の株高となりましたが、要因の1つとして中東や北朝鮮などの地政学リスクが暴発せずに総じて平和な1年となったことが大きいでしょう。ただしリスクはなくなった訳ではなく常に燻り続けています。年初も米軍によりイラン革命防衛隊司令官が殺害され、中東情勢の緊張感が高まっております。予期せず暴発して軍事衝突が発生すると、マーケットの波乱要因となります。

## ⑨業界大再編

生産性の向上や、GAF A等の巨大プラットフォーマーに対抗する競争力の強化から各業界で大再編が起こる可能性もありそうです。もしかしたらGAF A同士の合併もあったり？ また思ってもみないような業種の合併もあるかもしれません。長引く低金利環境で一段と収益の悪化する銀行についても、他人事ではありません。銀行と通信業、自動車とプラットフォーマー、小売業と通信業、

## ⑩酒税アップ

2019年は世界的に突如としてプラスチックストローが問題になり、紙製や繰り返し使えるストローが出たり、プラスチックストローの廃止を表明する飲食店が多数出るなど、世論が企業に影響を与えました。WHOなどの国際機関が突然アルコールの危険性を指摘し、全世界的に酒税を上げるなんてこともあるかも。そんなことになれば、消費増税とダブルパンチで家計的には厳しい状況になるでしょう。

